

守りましょう！大切な命 まずは正しい知識から！

7月5日（木）～7日（土）に発生した豪雨災害は過去に例がないほどの規模で、各地が様々な被害を受けました。
気象庁から、特別警報が発表され、本町は避難所を開設し避難指示を発令しました。



特別警報って？ 避難勧告と避難指示って？

今回発表された特別警報や避難勧告と避難指示の重要度の違いなど、皆さんに知っていただき、正しい対応をとってもらえるよう紹介します。

特別警報とは？

特別警報は、警報の発表基準をはるかに超える現象に対して発表されます。

したがって特別警報が発表された場合は、重大な災害が既に発生しているもおおしくない状況です。周囲の状況に十分注意

注意報	災害が起こるおそれあり
警報	重大な災害が起こるおそれあり
特別警報	重大な災害が起こるおそれが著しく高い

し、本町の避難情報に従うなど適切な行動をとってください。

避難情報について

避難情報には、「避難準備・高齢者避難開始」「避難勧告」「避難指示」の3つがあります。

今回発令した避難指示は最も緊急性が高く、災害が発生するなど状況がさらに悪化し、人的被害の危険性が非常に高まった場合に発令します。



緊急性	避難情報の種類	とるべき行動
↓ 高	避難準備・高齢者等避難開始	高齢者等は避難開始、一般の人は避難の準備
	避難勧告	速やかに避難開始
	避難指示（緊急）	緊急に避難 外が危険な場合は 屋内の安全なところに避難

これからの生活の中で意識していただきたいこと

今回の豪雨は、災害発生危険性がとても高いものでした。豪雨災害は、各地域の状況により変化します。

安全安心な生活を送るために、ハザードマップや避難所の確認、非常時の備えなどを今一度行ってください。自分の命や家族の命を守るため一人ひとりが防災の意識を持ちましょう。

また、集落単位の避難訓練やひとり暮らしの高齢者の家の把握など、集落で可能な防災にも積極的に取り組みましょう。



【補助金について】

豪雨で被災した住宅、道路、水路、農地等の緊急対応に要する費用の一部を補助します。

（詳細は最終ページ）

【問合せ先】役場総務課

☎ 75-4111

「重要文化的景観 選定記念シンポジウム」開催

【背景】

平成30年2月に、「智頭の林業景観」が国の重要文化的景観に選定されました。

重要文化的景観に選定されたことよって、これから皆さんとどのように保存し、活用していくかの議論を始め、意識を高めていただくとための重要文化的景観シンポジウムを開催しました。



more trees 事務局長
水谷 伸吉さんによる基調講演

more trees 事務局長水谷伸吉さんによる基調講演があり、more trees 代表の坂本龍一さんからのビデオメッセージもいただきました。

水谷さんは「都市と森の繋がりに」「関係人口」をキーワードに「関係人口を利用することで都市と森が繋がりが、景観の保存・活用を勧めることが出来るのではないかと思う。その一助として私たちも智頭町に関わってきたい」と講演されました。



沖の山森林鉄道の資料映像

【パネルディスカッション】

登壇者

- ・コーディネーター
山本 福寿さん (智頭の山人塾 塾長)

・パネリスト

- 中井 将胤さん (文化庁文化財部記念物課調査官)
- 中越 信和さん (広島大学大学院教授)
- 本間 智希さん (奈良文化財研究所)
- 大谷 訓大さん (アソシエイトフエロー)
- (智頭ノ森ノ学ビ舎)

中井さん「智頭の森がさらに手入れをされて住み良い町となつてほしい」

中越さん「常に勉強をして今ある智頭町の宝を増やしていくことが大切」

本間さん「日常生活の細やかな積み重ねが景観をつくっていく、住んでいる人が意識して智頭らしさを考えていくことが重要」

大谷さん「文化を重要視しなく

でも生きていける世の中で余裕を持ち、非効率なことでも文化的なことをする事で町の深さに繋がるのではないかと4人が思いを語りました。



パネルディスカッションの様子

景観は生業や生活に直結するものであり共に当たり前だと思つている景観を当たり前に残していく、受け継いでいくことが重要だと認識できました。